

1. 内外政

- ・19日、ゲルマン外務・欧州統合相は、シュタインマイヤー独外相と会談し、二国関係、モルドバEU関係及び地域情勢につき議論。
- ・19日、バセスク・ルーマニア大統領は、モルドバは第二のルーマニア国家であり、同国の将来に関するルーマニアの責任は重大、6月27日の同国とEUの連合協定署名までに、情勢が不安定化しないことを願う旨発言。
- ・20日、フィラト自由民主党党首は、訪米し、ヌーランド米国防務次官補と会談。
- ・20日、ヴォローニン共産党党首は、欧州統合には反対しないが、主権を失いかねないEUとの連合協定の内容に反対している旨発言。
- ・21日、ボゴエヴィチOSCE特別代表は、6月5、6日にウィーンにて開催予定の「5+2」協議は、ウクライナ情勢と切り離して実施されるべき旨発言。
- ・21日、ゲルマン外務・欧州統合相は、ヴェセロウスキー・ウクライナ沿ドニエストル問題特別代表と会談し、ウクライナ情勢、「5+2」協議及び両国の欧州統合プロセスに関し議論。
- ・22日、マケイン米上院議員は、レアンカ首相と会談。両者

は、モルドバのエネルギー面及び情報面での安全保障につき議論。

- ・22日、ヴォローニン共産党党首は、ロシア率いる連合同盟は存在しないに等しく、加盟はできない旨発言。
- ・22日、シェフチューク「沿ドニエストル共和国大統領」は、ヴェセロウスキー・ウクライナ沿ドニエストル問題特別代表と会談。
- ・22、23日、ゼマン・チェコ大統領が訪問、レアンカ首相、ティモフティ大統領及びコルマン議会議長と会談。

2. 経済

- ・19日、国家統計局は本年第一四半期のモルドバのEUへの輸出が対前年同時期比で22.5%増加し、3億1,880万米ドルに達するとともに、モルドバの輸出におけるEUの割合が44.1%から55.6%に増加、一方、CIS諸国への輸出は26.5%減の1億8,090万米ドルとなり、同様にその割合が41.8%から31.6%に減少した旨報告。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)